

大洗応援隊！～巡って遊んで好きになる～

分野：ボランティア、地域振興

代表者：理学部 3年 青山 実樹

連携先

髭釜商店会、大洗町役場まちづくり推進課、大洗町商工会、大洗町商店会、大洗町役場商工観光課

顧問教員

伊藤 哲司（人文社会科学部・教授）

参加者

青山 実樹（理学部理学科 3年）
細川 颯大（工学部知能システム工学科 3年）
今村 裕哉（人文学部社会科学科 4年）
大貫 ひかる（人文学部社会科学科 3年）
小野寺 哲（工学部電気電子工学科 3年）
村岡 早紀（人文学部社会科学科 3年）
阿部 友樹（人文社会科学部法律経済学科 1年）
井内 翔吾（工学部機械システム工学科 1年）
芝本 匠冴（工学部情報工学科 1年）
鈴木 美雪（理学部理学科 1年）
名倉 莊一郎（理学部理学科 1年）
森田 耕平（人文社会科学部法律経済学科 1年）

プロジェクトの概要

●プロジェクトの背景・目標

大洗応援隊！は 2012 年より大洗町の髭釜商店街で「ほげほげカフェ」を運営してきた。これまでの成果として、カフェの知名度

が徐々に上がっていること、イベントの開催をしていること、情報発信をしていることがある。昨年はフリーペーパーの発行を通じて地域と学生と観光客との繋がりやの契機を作ることができた。

昨年度は、ほげほげカフェに来てくださったお客様を中心とした活動だった。今年度は商店街まで視点を広げ、商店街の魅力の発信に力を入れる。そこで、従来のカフェ運営やイベントに加え以下 2 点を目標とした。

①商店街を巡って遊んで知ってもらうための企画考案・開催

現在大洗町には観光客が多く訪れている。しかし、応援隊のこれまでの活動を通じて、商店街に寄らず、観光施設やイベント会場に行く方が多いと感じた。そこで、商店街の魅力をもっと伝えるため、独自の企画を考案し開催する。

②最新の情報による、商店街を訪れる際の手助けとなるようなツールの作成・発信

昨年ほげほげマップを改訂したが、閉業してしまった店舗があり、最新の情報を伝えることができていない。そこで、マップを再度改訂し最新の情報発信を行い、商店街を周る際の参考にしてもらう。

●活動日程

7月	7日	ほげほげカフェ運営 茨城県昔話の会開催
----	----	------------------------

	28日 ほげほげカフェ運営 防災ゲームクロスロード 開催
8月	26日 八朔祭でのほげほげカフェ運営
9月	1日 ほげほげカフェ運営 茨城県昔話の会開催
	23日 ほげほげカフェ運営
	大洗ほげほげマップ改訂のための 情報収集
10月	13日 ほげほげカフェ運営 音楽祭「ほげFes」開催
	27日 ほげほげカフェ運営 ほげほげすごろく（商店街 の店舗を巡るイベント）開催
11月	3日 ほげほげカフェ運営
	18日 あんこう祭りでのほげほ げカフェ運営
12月	8日 ほげほげカフェ運営 茨城県昔話の会開催
	16日 ほげほげカフェ運営 クリスマス企画の実施
1月	26日 ほげほげカフェ運営 茨城県昔話の会開催
2月	23日 ほげほげカフェ運営 茨城県昔話の会開催

プロジェクトの成果報告

●カフェ運営・茨城県昔話の会

大洗町にある髭釜商店街の空き店舗を活用した「ほげほげカフェ」を月に1~2回運営した。運営日にはSNSで宣伝を行い、観光客の方や住民の方に来ていただいた。また、月に1回程度ほげほげカフェ内で、地域の方に茨城県昔話の会を開催して頂いた。

●大洗ほげほげマップの改訂作業

改訂までの流れ

商店街のお店1店舗ごとに直接お話を伺いに訪問する。改訂作業における質問内容としては、マップへの掲載の有無及び掲載内容の変更点である。これにより得られた変更点を印刷会社へ伝え、修正を加えたものを印刷してもらうことで改訂作業を終了とする。また、印刷会社への連絡は地域連携社会センター及び工学部総務係を経由して行う。

結果

今年度に変更がみられた部分はすべて修正することができた。加えて、印刷会社の協力のもと、実際の商店街の道幅とマップ上に記されている道幅の対応をとることができた。これにより、マップ利用者に現在地や目的地周辺の情報をより詳しく理解してもらえると考える。また、大洗町の町営駐車場の位置が分からないという声をいただいたことがあったので、今回の改訂で町営駐車場の位置を新たに記した。

●参加型音楽祭「ほげFes」の開催

10月13日に、大洗応援隊！主催でほげFesという音楽祭イベントを開催した。開催にあたりTwitterでの告知および、ポスターの宣伝を行った。その結果、茨城大学からはGitarre!の方々、一般募集からは2団体が参加してくださった。Gitarre!と一般募集の1団体はアコースティックギターによる弾き語り、もう片方の一般募集の方はトロンボーンによる演奏をしていただき、イ

イベントを盛り上げていただいた。また、今年は演奏時刻に遅れてしまった参加者がいたが、演奏順を変更し休憩時間を間に入れることで対応した。今後の課題としては2点あげられる。1つは参加者の固定である。参加してくださる方が毎年決まっているため、茨城大学および一般募集の新規参加者を増やすことが重要である。2つ目はイベントの開催時期である。今年度は昨年より一般募集の参加者が少なかった。昨年はイベントの日に重なってしまったため、参加者や見学者が少ないと感じていたため、今年はイベントのない日に開催したが参加者がより少ないという結果になってしまった。そのため、ほげ Fes はイベントがある日でイベントが終わった時間帯に開催するのが妥当であると感じた。



2018年ほげ Fes の参加者

●防災ゲームクロスロード

概要

7/28(土)に、ほげほげカフェにて「YES と NO を越えて～防災ゲーム『クロスロード:大洗編』の実践から～」を開催した。

講師は京都大学防災研究所 巨大災害研究センターから李フシン先生をお呼びして、大洗応援隊の学生と大洗町の住民の方と意

見を出し合いつつ交流した。

方法

防災ゲームクロスロードとは、東日本大震災で実際に起きた選択を取り上げて、いまの自分ならどう行動するかを話し合う、正解のないゲームである。

例えば、「あなたはお母さん。子供たちが学校へ行く途中で、もうすぐ学校につく時間のはず。しかし、その時、大地震が発生し10分後には津波が来るかもしれない。連絡もとれない。子供たちを助けに行く？」という問いに対して「YES 助けに行く」「NO 先に逃げる」という札を各自一斉にあげる。

そして、その後、YES 側、NO 側の意見を言い合う。

カフェの認知度向上だけでなく、町民や学生の防災意識を高めることを目的に行った。

参加者以外にも李フシン先生が調査した小学生が意見を述べている動画を見た。子どもとしての意見として「迎えに来てほしい」という思いを聞くことができ、また、彼が中学生に上がった時にもう一度意見を述べてもらった動画では、「当時の自分は子どもだね(笑)」と当時の自分を振り返っていた。

男女で意見が割れたお題に「あなたはライフセーバーのキャプテン。突然、大地震が起こり、避難誘導を開始する。しかし、津波があと5分で到達する。まだ海には子供が大勢残っている。あなたは残って避難誘導を続けますか？」というものがあつた。

男性側はキャプテンという責任感から「YES 避難誘導を続ける」、女性側はなぜ早く避難できなかったのかを次に活かすために「NO 自分も避難する」という結果になつ

た。

大洗町でライフセーバーのキャプテンをしている、『大洗ライフセーバークラブ 代表ジーコ船長』からキャプテンとしての考えを映像から伺うことができた。

ほかのお題では、「YES」「NO」以外の選択肢が生まれた。

このように、一人ひとり全く違う意見が多くあり、また、同じ人でも時間が経てば、新しい意見が生まれるこのゲームは様々な考えを知ることができる。

防災について改めて考え、応援隊のメンバーや住民の方々と考えの違いを共有でき、災害時の“分かれ道”に備えた心構えをすることができた。



防災ゲームクロスロードの様子

●ほげほげすごろく

概要

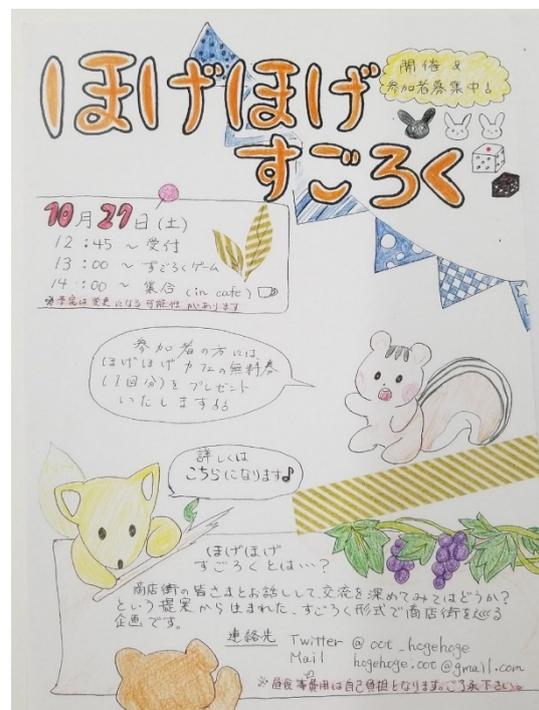
ほげほげすごろくとは、応援隊の学生と観光客が大洗駅前の髭釜商店街、永町商店街、曲がり松商店街の店舗を回るイベントである。これを開催するに至った背景として、これまでのカフェ運営を通じて大洗にイベントが開催されているときに商店街には寄らず、大型観光施設やイベント会場へ赴く観光客が多いと強く感じたことにある。

そこで、商店街の魅力をもっと伝えるため独自の企画を考案して提供をしたいと思ったのがこの企画の発端である。

開催当日は参加申し込みと当日の呼び込みで、学生と観光客合わせて参加人数9名そして対象の15店舗中から4店舗を巡ることができた。

方法

SNS を利用した事前宣伝では参加者が1名だったため、当日は呼び込みを行った。



宣伝ポスター

10月27日 イベント当日

- ① ほげほげカフェ前の通行人にほげほげすごろくのイベントを伝える。
- ② 一緒に店まで動向し、店の方と交流をしたあと写真を撮影する。

- ③ ほげほげカフェに戻り参加者と学生が共に伝えたい内容や料理の感想を模造紙にまとめる。

- ④参加者がすごろくを振り、賽の目の数ごとにほげほげカフェの無料券を提供する。



イベントの様子



掲示用のほげほげすごろく

なお、イベント終了時には店の情報の宣伝も行った。



永町の甘太郎さんからお知らせがあります！

車でお越しの方は裏に屋根付きの専用駐車場がありますので、ぜひご利用ください。そして、電話での予約も承っています。ご予約の際は来店時間をお伝えのうえお越しください。

甘太郎さんの季節の餡おすすめですよ(・ω・)ノ

返信をツイート

宣伝内容その①



甘太郎さん駐車場写真

宣伝内容その②

反省点

- ・ターゲットである観光客の確認不足
商店街を歩いている方の多くはアニメのコンテンツのファンの方々である。声を掛ける人の多くが二人組や団体客が多く、わざわざ初対面の学生の企画に参加して店舗へ訪ねることはしないのではないかと感じた。
- ・協力してくれる店舗へ対するメリットの

少なさ

夏期休業中に対象店舗へすごろくの説明と訪問の許可をもらうため、一件ずつ交渉した。しかし、大半の店舗から「面倒だ」「土曜は混んでいるかもしれない」といった理由で断られた。店側が協力することでどんなメリットがあるのかと店主は思ったはずである。すごろくを通じて、してほしいことを学生自ら店側から提案してみてもよかったはずである。例えば、参加者から Twitter での投稿で商品の割引等の工夫が必要だっただろう。

・「ほげほげすごろく」というネーミング
実際はすごろくというゲームをするのではなく、許可を得られた店舗のうち参加者が任意で訪問する店舗を選択するというやり方で開催した。そのため、参加者から「分かりづらい。」との声を頂いた。

しかし、参加者の方から「この企画のおかげで以前から気になっていたお店へ訪ねることができた。」「買い物をせず立ち話だけするのは冷やかしになるかもしれないため行けなかったが、今回の企画のおかげで行くことが出来て良かった。」との感想をいただけた。